

㉓

共生の森（堺第7-3区）

文・写真 奥田 喜代子(NPO法人共生の森)

共生の森は大阪湾に突き出た半島の先にあり、元は産業廃棄物処分場であった所で100haもの広大な面積があります。経済発展に伴う負の遺産ともいえる場所を自然再生させるべく市民・行政・諸団体の協働で森づくり活動を行っています。植樹を始めて20年、林の成長に伴い草原性から森林性までの多様な生物が生息する環境になりました。工場地帯に隣接しているため周辺からの生物種の供給は限定的で、生き物構成としてはいびつな面もありますが、年月を経ることで独自の生態系空間の形成が期待されます。7-3区周囲はコンクリート護岸で固められ、区域内の水域は海と遮断され海水の流入はありません。近年この半島の北端部に海岸性希少植物が群生していることがわかりました。多くは2018年台風以後のもので、高潮や荒天時の越波により泉南地方から種が運ばれたのではと推量しています。護岸溝にハマサジやホソバハマアカザなど大阪府絶滅危惧種に指定されているものを含め希少種6種が群生しています。一時的な群落で消滅の可能性もありますが、今後の変化を見守りたいと思っています。



堺7-3区北端部の護岸
右側がすぐ海で荒天時には越波により海水が入る。



護岸溝に砂や砕けた貝殻が堆積(2cm以下)
ハマサジ(大阪府絶滅危惧Ⅰ類)が群生

㉔

大和川「千両曲り」の生物多様性

文・写真 松下 宏幸(大和川自然観察会)

大和川はJR浅香駅を中心に東は吾彦大橋、西は南海高野線に挟まれた辺りで、大きく南に蛇行している。「浅香の千両曲り」と言われている箇所だ。この辺りは特に冬場、カモ類など野鳥が多く見られ、しばしばそれを狙う猛禽類（ハヤブサ、チョウゲンボウ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ）も姿を見せる。河川敷にはヤナギなどが生え、山之内西公園辺りにはニレやエノキなども生えている。そのため、意外にもゴマダラチョウやコムラサキなど森林に多い蝶も見られる。また、外来種とは言え、セイヨウカラシナやナヨクサフジが咲く様子は壮観である。

これまで観察された生物はトータルで野鳥が86種類、昆虫140種類。クモなど10種類以上。

爬虫類はアオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、クサガメ、ミシシippieアカミミガメの7種類、両生類はヌマガエルとウシガエルの2種類、哺乳類はイタチ、モグラ、ヌートリアの3種類（哺乳類は足跡などで判定）。植物は在来、外来ひっくるめて86種類を確認している。



珍しくカワアイサが見られた



セイヨウカラシナ